

科学研究費助成事業（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	16H06389	研究期間	平成28(2016)年度 ～令和2(2020)年度
研究課題名	肝癌抑制タンパク質AIMの活性化機構解明とそのNASH肝癌に対する臨床応用	研究代表者 (所属・職) (平成31年3月現在)	宮崎 徹 (東京大学・大学院医学系研究科・教授)

【令和元(2019)年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準	
	A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	A-	当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
	B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

(意見等)

本研究は、IgM (Immunoglobulin M) から AIM (apoptosis inhibitor of macrophage) を解離させる活性化メカニズムを明らかにし、内在性 AIM の活性化による NASH (Nonalcoholic steatohepatitis) 肝癌治療を目指すと共に、血中の活性型 AIM 量と疾患の関連性を見いだすことで、新しい NASH 肝癌の早期診断法を樹立することを目的としている。

研究計画である、(A) AIM 活性化のメカニズム解析、(B) AIM による NASH 肝癌治療の開発、(C) ヒト検体における AIM 解析による診断のいずれも順調に研究が進捗している。特に、活性型 AIM に対する特異抗体を作製し、臨床応用可能な診断に結びつけることができている。さらに、AIM と IgM の結合様式を解明し、NASH 肝癌に活性型 AIM の発現が高く、NASH 及び NASH 肝癌ともに線維化ステージが進行するにつれて活性型 AIM の発現が上昇することも明らかにしている。